

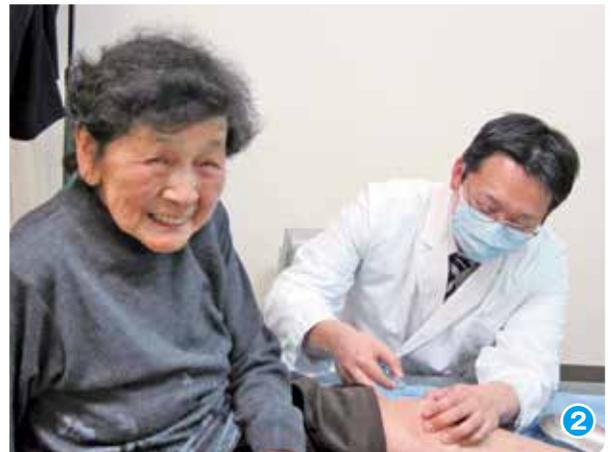
ハーモニー だよ



第76号

平成29年6月1日発行

医療法人 明医研 広報誌



医療法人
明医研



WARM & RELIABLE

- 緑 区 ハーモニークリニック
れんけい訪問看護ステーション
明(めい)サポートヘルパーステーション
- 南 区 デュエット内科クリニック
ケアメイト訪問看護ステーション
- 中央区 アトリオ訪問看護ステーション

『新しい推進力』考



医療法人 明医研
理事長 中根 晴 幸

季節の移る中で桜が咲いて散り、ゴールデンウィークの人数が落ち着いて、今年もはや半ばを迎えようとしています。三室周辺にも武蔵浦和にも見事な桜並木がありますが、今年は桜の開花期間が長く、皆さまも楽しまれたのではないのでしょうか。ちょうどこの4月に70歳を迎えた自分自身にも良い思い出を残してくれました。

2月末から5月初めまでは連続して、明医研が関わる学術発表、地域と交流する勉強会、院内外での発表が開かれ、新しい世代が地域医療の推進力になっていることを実感しています。「ハーモニーだより」だけでなく、現在はインターネットのホームページで明医研のニュース速報が掲示されますので、ご覧になってください。先日も高松で日本プライマリ・ケア連合学会が開催され、私も参加しました。土曜日を休みご迷惑をかけましたが、とても勉強になり学会参加の意義を再認識しました。

診療の推進力に関わる二つの大切な報告をしますと、ひとつは4月1日から内科の常勤医として、関茂樹先生が着任されたこと

とです。自己紹介されている通り、日本でも有数のがん診療の専門医で、明医研の関わる緩和ケアへの貢献が期待されます。

報告その2は、中央区に新設した明医研第3の訪問看護ステーション「アトリオ」が順調に稼働し始めていること。地域の医療機関とデュエット内科とが主治医となつて、今まで対応できなかった地域の需要に応じ始めた現状には「れんけい」がスタートした時のようなパワーを感じています。

7月が新年度となる明医研では、来る年に向けての構想を立てる時期です。私たちの医療がいつの世にも地域の人々の安心のもとであるよう、次世代を勇気づけてゆきたいと思っています。

『地域包括ケア構築のために』



ハーモニークリニック
医局長 中井 秀 一

緑区の地域包括ケア勉強会も3月で第4回となり当法人も積極的に協力し、学びを深めました。地区よりもさらに小さな地域単位での地域包括ケアの推進が必要と感じました。

4月には当院で地域のケアマネジャーさんを対象に、「まだまだ伝えたい認知症のこと」と題し「学びのセミナー」という勉強会

を開催しました。多くのご参加を頂き、私からは一般的な認知症の医学的知識、認知症の方への安心な環境作りの方法、在宅の対応などについてお話させて頂きました。

このような会を通して、地域の専門職が目標に向かい協働できるように、私たちができることを模索していきたいです。

『どうぞ、よろしく願っています。』



ハーモニークリニック
医師 関 茂樹
せき しげき

4月から明医研で働いている関茂樹です。どうぞよろしく願っています。私は医師になって38年、その大半をがん患者さんの診察（前半をがんの薬物療法、後半を緩和医療）に心血を注いできました。

こうした経験から私が学んだことは、①命はいつまでもあると思わないほうがよいこと、②ある年齢からは長生きを目標とするのではなく、自分の生き方を意識して過ごしたいと思うこと、③生き方を大事にするだけでなく、最期の日々をどう過ごすかも大事だと思われること、の3つでした。

難しいがん治療においては、厳しい表現ですが「治療に反応している間が寿命」とも言われます。終わりが来ることを意識せ

ざるを得ない状況もあるものです。私たちが医療者は「生き、死を迎えること」に接する機会が多い専門職です。それだけに、貴重な今日と言う日の生き方を患者さん、ご家族と共に考え、残る日々に取り添って「温かく、信頼できる、明医研の医療」の一翼を担って行ければ、と考えています。

『医者とは患者を理解しているか』



医療法人 明医研
内科 特任医師 市川 家 國

もともと私は食いつれのない職業として医学部を選んだような人間ですが、医者としての態度を改めさせられた3つの事件があります。一つは日本を離れて10年後、米国のある大病院に就職した際、病院長が私を呼び出し「ウチではこれまで東洋人の医師を雇ったことがない。皆が注目している。」その後13年間、テネシー州で日本人医師の礼儀正しさを伝える大役を負った。

二つ目は日本に戻って間もなく。私の病棟で医療事故発生。夜勤明けの看護師が、経口栄養液を誤って患者さんの静脈に点滴。そして死亡。当時、日本では表面化しない医療事故の現実を米国での経験で知っていたから、患者さんの家族に面会した際、開

口一番、「申し訳ありませんが、実はよくあることなのです。」勿論、家族は激怒しました。今でこそ、その家族とは、医療事故防止のための講義を一緒に医学部の学生にする間柄ですが、数年間の付き合いで患者さんの家族の思いというものを自分はいくら理解していなかったことを学びました。

三つ目は、そうして医療事故原因や背景について勉強し、医師の患者さんへの対応の仕方についても学びなおし、そこで発見した多くの事柄を若手の医師に伝えようと教材まで作成していた折でした。同僚の外科の教授が大腸がん末期で入院。同じころ、産業医をしていた義兄も大腸がん末期で入院。二人とも余命いくばくもないことを知っているという。「患者になって初めて知った患者の思いに対する医師としての反省」、を教材に反映させたいと思い、お二人に教材を編集していただいた。お二人はその後、ひと月ほどで亡くなられたが、彼らの作業を見ていて気付いたこと。「患者の思いを理解している」と医療者側が思ったら、それは過信だということ。

『特任医師のご挨拶』



医療法人 明医研
消化器内科 特任医師 木村 淑子

この度、中根理事長、大和デュエット内科院長のご厚意により、特任医師を任命致しました。デュエット内科非常勤医師として既に9年が過ぎましたが、更なる歩みを進めることになりました。立ち止まったり休んだりしながらも、その時々目の前のことを一生懸命やっていたら、いつの間にか月日が経っていたという思いです。外来の患者さん、往診に伺うご家庭、福本院長、デュエットやケアメイトのスタッフの皆様から教えられ励まされ助けられてきました。これからも、患者さんの生活を医療という側面から応援していきます。

『認知症のあるがん患者さんの痛みの緩和について』



ハーモニークリニック
医師 市川 聡子

先日高松で行われた日本プライマリ・ケア連合学会学術大会で、認知症のあるがんの患者さんの痛みの緩和についての報告を行いました。認知症で痛みを言葉で伝えられない方については、その方の行動や表情を観察して、痛みがあるかどうかを見極める必要があります。暴言、いらいら、介護拒否など、一見認知症の悪化に見えたとし

ても、それが実は痛みを表している行動だったということもあるようです。普段から患者さんに接する時間の長いご家族の目が特に大切です。いつもと違うと感じたら、医師・看護師・ヘルパーにお伝えください。

『花粉食物アレルギー症候群 (Pollen-Food Allergy Syndrome)』



ハーモニークリニック
内科 松林 洋志

花粉症の患者さんが特定の食物により口腔アレルギーを起こすケースが増加しております。花粉・食物アレルギー症候群と呼ばれています。特定の花粉と共通抗原性を示す食物は、スギ・ヒノキ花粉症ではトマト、イネ科花粉症ではメロン、スイカ、オレング、トマト、ジャガイモなど。加熱や胃酸により抗原性は失われるため、生で摂取した際に口腔内や口の周囲に局限した痛み・痒み・腫れなどを来するのが典型的。スギ・ヒノキ花粉の飛散が終わり、ようやく花粉症から解放された方も多いと思いますが、イネ科花粉症はこれから10月頃まで続きます。血液検査による診断や薬による症状緩和ができませんので、症状に心あたりのある

方は御相談下さい。

『医療とパソコンのアップデート』



ハーモニークリニック
医師 有馬 聖 永

先日、不正プログラムが世界中で流行し、話題となりましたが、最新版でないコンピュータが標的になったようです。

医学の進歩はIT技術の発展に支えられています。一臨床家にとっても最新の知見を収集したり、膨大な情報を整理するのにパソコンやタブレットは有用です。

コンピュータもまた日々進歩しており、適宜ソフトウェアのアップデートが必要となります。

一方、最新版としたことで既存のアプリケーションとの整合性が乏しくなったり、かえって使いづらくなることもあります。

医療の現場でも最新の知見がどれほど確かなものか、新薬が旧来のものより本当に有効なのか十分な吟味が必要なのが少なくありません。

医学情報もITも新しいものに乗り遅れることなく、患者さんには適切なタイミングでより良い医療を提供できるよう心がけたいと思っています。

各部門から

『医事科として出来ること』



ハーモニークリニック
医事科 巻川 雅美
科長代理

はじめまして。今年の3月より医事科長代理として入職した巻川雅美と申します。

医事科というとあまり聞き慣れない言葉かもしれませんが、医療事務と言えば耳にされたことがあるのではないのでしょうか。医事科業務は受付、会計、案内、カルテ管理、診療報酬明細書作成、電話対応など多岐に渡ります。そのような医事科の一員として、医療保険、在宅医療、健康診断、予防接種に至るまで正確でわかりやすい対応を心掛けてまいりたいと考えております。

また、医事科は患者様を直接診ることもお薬を処方することは出来ませんが、受付や会計業務を通して患者様の痛みや不安を理解し、少しでも和らいで頂ける言葉掛け、お待たせしないよう待ち時間の短縮に取り組んでいます。

最後にどんどん電子化される昨今ではあります。患者様に必要とされる医事科を指してまいりますのでご指導を宜しくお願い致します。

なるほど健康講座

『スギ花粉症舌下免疫療法』



デュエット内科クリニック
院長 大和 康彦

サッカーに明け暮れていた小学生時代、いつも春になると、鼻水・目の痒みで、周囲から「また風邪ひいたの？」と心配された、まだ花粉症という概念がなかった頃を思い出します。それから30年以上、スギ花粉症と診断がついてから、春の症状のある時期だけ、抗アレルギー薬内服で、だましましたし過ごしてきました。1年半前に「スギ花粉症舌下免疫療法」を自ら受けるようになってからは、驚くような改善が見られ、今春も全く症状が出ず、春が嫌い…から一番好きな季節になりました。当職員も数名治療していますが、皆同じように楽になり、共に喜んでいきます。

舌下免疫療法とは、舌の下に薬液を滴下し続けることで、その免疫能を獲得する治療法です。今回は、日本人の4人に1人が罹患しているスギ花粉症、それに

対する舌下免疫療法に特化して、要点を列挙します。

① スギの花粉症であることが、血液検査で確定していること。他院で検査の済んでいる方は検査結果用紙をご持参下さい。口頭のみ確認では治療開始はできませんので、その場合は、まず血液検査でスギ花粉症と診断する必要があります。

② 適応年齢は13歳～65歳です。

③ 最低2年間（～3年間）、連日1回、写真の容器の量（1cc）を滴下し続けなければなりません。花粉症の季節以外にも連日です。

④ 舌下に滴下し2分間保持し、その後飲み込みます。5分間はうがいや飲食を控えます。30分間は運動やシャワーなどを控えます。

⑤ 冷蔵庫保管が必要です。

⑥ 初回は2週間後、以後は4週間に1回の受診が必要です。

⑦ 効果は100%ではありません。おおよそ2割の方には効果がでないと言われています。



⑧ アナフィラキシー（特に口腔内のアレルギー症状）などのアレルギー反応による副作用の可能性があり、稀に重篤な副作用がでる可能性もあることを了承され、緊急時は医療機関に受診できる方。

⑨ 初回処方後は、外来に戻っていただき、実際に投与方法の確認や、アレルギー反応がないか30分は症状確認を要します。治療初回は診察を含めて約1時間以上かかります。

ハーモニークリニック・デュエット内科クリニックともに、各種アレルギー検査やスギ花粉症舌下免疫療法を受けることができますので、お気軽にご相談いただけたいと思います。なお、スギ花粉症舌下免疫療法は花粉飛散期には開始できないため、6月から12月上旬までの開始とさせていただきます。

表紙写真紹介

- ① 訪問診療中の市川家國先生
- ② 整形外科外来（処置中）
- ③ 中根理事長、お誕生日祝い
- ④ 中井医局長と市川聡子先生
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会（高松にて）

職員から

『ハーモニーに入職して』



ハーモニークリニック
看護科 榎川 文

ハーモニーに入職して1年が経ち、多くの患者さんと関わる機会を頂くことが出来ました。

往診業務に携わらせて頂いたことで、病院で働いていた頃は退院が「ゴール」でしたが退院後も在宅療養で安心して継続できるような介入を考えることが大切だと思えました。

例えば、費用のことや在宅相談で患者さんや家族の方の不安や要望を聞いて、病院に勤務していた頃より個別性ある看護ケアについて考えさせられるようになりました。また一人では難しいことも、クリニック・訪問看護・薬局などと連携することで、患者さん一人ひとりに対してのサポートの幅が広がると感じました。

外来・往診を通して、患者さんのケア、ときにはご家族との架け橋になれるような看護師でありたいです。慣れないことばかりなので、一つ一つ丁寧に行っていきたいと思えます。よろしくお願ひします。

『地域との関わり』



アトリオ訪問看護ステーション
訪問看護師 片桐 季世

今年2月にケアメイト訪問看護ステーションからアトリオ訪問看護ステーションに異動になりました。

アトリオは昨年9月にさいたま芸術劇場前に開設したばかりで、看護師4名、ケアマネジャー1名、理学療法士1名の計6名のステーションです。

まだ訪問患者さんも多くありませんが、高いと思われる月間目標訪問件数も確実に達成しています。ステーション内には地域の交流スペースもあり、通りがかりでも気軽に入って頂き、専門職に相談できる場があります。またクリニックの併設もないこともあり、地域の先生方やケアマネジャーとの関わりも密になっています。報告と共に病院の相談室や包括支援センターにも出向くこともあります。

ケアメイトから異動するにあたって不安がなかった訳ではありませんが、今も毎日楽しく仕事が出来ていることに感謝しています。

明医研 ニュース

●平成29年4月からの医師の入職等・専門外来担当医変更のお知らせ

※明医研の常勤医として、関茂樹(せきしげき)先生が入職しました。がん患者さんの診療(薬物療法、緩和医療)に長年携わり、多くの医師の指導にも貢献されてきました。どうぞ、よろしくお願ひします。

※木村淑子先生が明医研(デュエット内科クリニック)の特任医師となりました。内科・消化器内科・総合内科が専門です。※小児科専門外来(担当・吉村聡先生)月曜日から水曜日に変更になっています。

(ハーモニークリニック)
●平成29年度さいたま市特定健康診査・がん検診が4月末より始まりました。期間は、平成30年の3月上旬までとなります。秋に大変混み合うことが予想されますので、お早めのご予約お待ちしております。

新入職員紹介

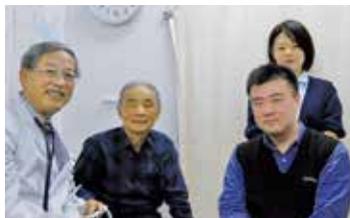
●ハーモニークリニック

- 医事科 菅川 雅美(まさまき) 科長代理 菅原 亜佑美(すげら あゆみ)
- 看護科 菅原 亜佑美(すげら あゆみ) 臨床検査 黒原 優衣(くろはら ゆい)
- デュエット内科クリニック
- 医事科 井上 史枝(いのうえ ふみえ) 診療放射線 龍前 明彦(りゅうまえ あきひこ)
- れんけい訪問看護ステーション
- 訪問看護師 田中 圭子(たなか けいこ)
- ケアメイト訪問看護ステーション
- 訪問看護師 加藤 史織(かとう しおり)

ふれあいホームページ

『インタビュー 元気』

見沼区在住 平手 敏三さん(76歳)に伺う



平成18年12月号で「私の仕事」の題でご紹介しました、平手敏三さんに再びお話を伺いました。若い頃に大病を患い、当時お世話になった医師と今でも年賀状のやり取りをされていて、「命を救ってくれた先生のごことは、今でも良く覚えていいます。生死をさまたげた平手さんは、一日一生という言葉大切にされていて、毎日を大事に生きることを日頃から意識されています。庭のお花もほっとけば枯れるから、喜んでもらえるならほしい方にあげてしまうそうです。病を患っていた奥様も生前に、近所の方によく配っていたとのこと。お父様は、中根理事長らが亡くなるまで在宅療養に関わってきました。ご家族にお別れの言葉をかけ逝かれたお父様を、自宅で看取れたことに感謝されました。その後、叔父様も在宅でお看取りをされ、10年間でご家族

3人を亡くされました。それからは、息子さんと2人3脚でお互いを思いやり過ごされてきました。

平手家には、16歳の飼いだカールがいます。平手さんの体重が増えてしまった頃、飼い始め、そのわんぱく犬と共に一日3回の散歩のおかげで、94cmあった腹囲もズボンがゆるくなり、スリムになったとのこと。今では、目も見えずにおいも感じないカールにも感謝を忘れないそうです。

「なんでも感謝！皆、お互い様」会う人会う人に挨拶をし、声を掛ける、そして、話を聴いてあげて自然に心掛けられています。知り合いからは、「(平手さん)にこにこして元気いいね」と、声をかけられることも多いそうです。関わる沢山の人の達との絆を深めていかれることでしょう。

(インタビュー 検査科 福田)



お昼寝中のカール

地域の介護支援専門員(ケアマネジャー)を対象とした勉強会の開催

4月28日に、地域の介護支援専門員・医療介護関係者を対象とした勉強会「学びのセミナー」を開催しました。平日の夜にも関わらず満席(定員25名)になりました。

ハーモニークリニック 中井秀一 医局長、れん けい 訪問看護ステーション 金久保麻紀子 管理者による認知症に関する講義とディスカッションが行われました。受講者より次のご感想をいただきましたので紹介いたします。

『学びのセミナーに参加して』



ケア花水木 介護支援 伊藤 健司さん 専門員

往診や訪問看護と聞くと、動けない患者像を連想しがちです。今回、認知症の概要を振り返り、通院拒否や服薬困難、健康と生活に様々な問題を抱えている事例を通して、その援助の突破口や重要な役割を担う往診と訪問看護の一面を再認識できました。ケアプランの視点を考える契機となりました。医療の専門性の高さが敷居の高さですが(私だけ?)、学びの機会は医療職種種の「人」を感じられる場でもあり、有り難い手がかかります。



ご案内

医療法人 明医研 常勤医師 中 根 晴 幸 (理事長・ハーモニークリニック 院長)
 大 和 康 彦 (デュエット内科クリニック 院長)
 市 川 聡 子 (ハーモニークリニック 内 科・総合内科)
 中 井 秀 一 (ハーモニークリニック 医局長・総合内科)
 松 林 洋 志 (ハーモニークリニック 内 科・総合内科)
 有 馬 聖 永 (ハーモニークリニック 内 科・総合内科)
 関 茂 樹 (ハーモニークリニック 内 科・総合内科)
 特任医師 市 川 家 國 (ハーモニークリニック 内 科・小児科)
 特任医師 木 村 淑 子 (デュエット内科クリニック 内 科・消化器内科)

ハーモニークリニック

〒336-0918 さいたま市緑区松木3-16-6

TEL 048-875-7888

※松ノ木東公園バス停下車徒歩 1 分

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前9:00~12:30	○	○	○	○	○	○	休
午後2:00~ 6:00	○	○	○	○	○	休	休

午前 受付 8:30~12:00 (土曜日は12:30) 午後 受付 1:30~5:00
【休診日】 土曜日午後・日曜・祝日

- 診療内容**
 - 内科
 - 呼吸器科
 - 消化器科
 - 小児科
 - 総合診療科
- 専門外来**
 - 神経内科
 - 整形外科
 - リウマチ・膠原病科
 - 血液内科
- 予約診療

デュエット内科クリニック

〒336-0021 さいたま市南区别所6-18-8

TEL 048-866-7350

※武蔵浦和駅より徒歩 5 分 ※臨時駐車場もございます。

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	休
午後2:30~ 6:00	○	○	○	○	○	休	休

午前 受付 8:30~11:30 (土曜日は12:30) 午後 受付 2:00~5:00
【休診日】 土曜日午後・日曜・祝日

- 診療内容**
 - 内科
 - 消化器科
 - 呼吸器科
 - 総合診療科
- 専門外来**
 - 神経内科
- 予約診療

H29年4月より水曜午後外来を再開しました。

●れんけい訪問看護ステーション (ハーモニークリニック2F)

TEL 048-875-7898

訪看管理者 金久保 麻紀子
居宅管理者 桐岡 愛子

●明(めい)サポートヘルパーステーション (ハーモニークリニック2F)

TEL 048-875-7874

管理者 小松原 友博

●在宅療養相談センター さいたま南
TEL 0120-373-173(無料)
センター長 原田 雅子

●ケアメイト訪問看護ステーション (デュエット内科クリニック2F)

TEL 048-866-7351

訪看管理者 鷹羽 佳美
居宅管理者 原田 雅子

●みるくる24 (定期巡回) (ハーモニークリニック2F)

TEL 048-767-3101

管理者 舟津 和江

●アトリア訪問看護ステーション さいたま市中央区上峰4-8-18

TEL 048-762-3623

訪看管理者 中島 悦子
居宅管理者 橋本 由美子

※明医研の訪問看護ステーションは居宅介護支援事業所を併設しています。

電話受付時間 平日 9:00~17:00 土曜 9:00~12:00

e-mail: soudan@meiiken.or.jp

- 明医研ホームページ — <http://meiiken.or.jp/>
- e-mail(事務局) — info@meiiken.or.jp

発行
 医療法人 明 医 研
 さいたま市緑区松木3-16-6
 TEL 048-875-7888
 FAX 048-875-7885